

報道機関各位

## 11月6日（火）第一回 鳴鳳堂国際青年映像祭 熊本地震震災復興支援写真展～『12+12九州写真展』開催決定！

この度、福岡にて北京電影学院と株式会社鳴鳳堂共同主催による日中の若手映像制作振興と交流を目的とした「鳴鳳堂国際青年映像祭」を開催する運びとなりました。

また、この度、中国最高峰の写真家である、宿志剛氏率いる北京電影学院撮影チームが九州12日間の旅を敢行し撮影した写真展を併催します。

さらに、九州で活躍中の伝統芸能や音楽家の皆さんのパフォーマンスが決定しました。

つきましては、ご取材・ご掲載のご検討のほど、何卒よろしくお願いいたします。

▼イベント名 : 第一回 鳴鳳堂国際青年映像祭/『12+12九州写真展』

公式サイト [www.miuvef.com](http://www.miuvef.com)



### ■ 開催趣旨

本映像祭は株式会社鳴鳳堂と北京電影学院により、映像に携わる若者が、相互に切磋琢磨し、広く深く交流出来る場を提供し、且つ国際的な映像制作者の交流と成長の場として活用出来るよう企画されました。世界各国の青年映像制作者とメディアが本映像祭に集結することにより、次世代の映像文化の担い手育成と業界全体のレベルアップに繋がることを目的としています。

### ■ 開催概要

第一回鳴鳳堂国際青年映像祭 レセプションパーティ

【日 時】 2018年11月5日（月）19:00～ \*受付18:30より

【場 所】 ヒルトン福岡シーホーク 6F KISS 福岡和食名店街  
(福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-3)

第一回鳴鳳堂国際青年映像祭及び『12+12～九州写真展』 開会式

【日 時】 2018年11月6日（火）10:30～11:30 \*受付10:00より

【場 所】 エルガーラホール天神 8F (福岡県福岡市中央区天神 1丁目4-2)

\*オープニングアクト: 「すずらん」Vo.村上ゆき Vn.村上ふみ Pf.三宅美紀子

\*『12+12～九州写真展』2016年熊本地震によるインバウンド復興支援として敢行した中国の写真家12人による九州の旅。今回は50作品を一挙展示。

エルガーラホールエントランスにて \*Close 21:30

第一回鳴鳳堂国際青年映像祭 部門入賞作品の上映

【日 時】 2018年11月6日（火）13:30-16:00（終了予定） \*受付13:00より

【場 所】 KISS 福岡 (福岡県福岡市博多区西月隈 5-18-43)

第一回鳴鳳堂国際青年映像祭 授賞式

【日 時】 2018年11月6日(火) 18:30~21:30 \*受付18:00より

【場 所】 エルガーラホール天神8F(福岡県福岡市中央区天神1丁目4-2)

\*21:00~21:30 第一回鳴鳳堂国際青年映像祭 鳴鳳堂大賞受賞作品の上映

\*パフォーマンス:琉球國祭り太鼓 福岡支部、鳴鳳堂青蓮社「四季の彩」、井上あずみ、LinQ 他

第一回鳴鳳堂国際青年映像祭 交流会(出品学生及び関係者に限る)

【日 時】 2018年11月7日(水)

【場 所】 熊本県阿蘇市鳴鳳堂(熊本県阿蘇市永草1943-28)

■ 応募データ

応募作品数:300作品以上

応募部門:ドラマ、ドキュメンタリー(30分以内)、アニメーション、写真、実験映像、携帯ビデオ作品他

<中国参加組織>12校

北京電影学院、中央戲劇学院、清華大学美術学院、中央美术学院、中国傳媒大学、中国美术学院、南京芸術学院、  
浙江傳媒学院、西安美术学院、魯迅美术学院、北京印刷学院、河北環境工程学院

<日本参加組織及び参加者出身校>9校

東京藝術大学、東京工芸大学、日本大学芸術学部、大阪芸術大学、東京藝術大学大学院、早稲田大学大学院、  
京都造形芸術大学、亜細亜大学、日本工学院八王子専門学校

参加資格:35歳以下の大学、大学院、専門学校課程修了後5年以内の者及び在校生

■ 賞の種類

賞金総額:600万円相当

鳴鳳堂大賞:25万円(1.5万人民币)

部門別:ドラマ、ドキュメンタリー、アニメーション、実験映像、写真・グラフィック、携帯映像の各部門  
金賞各1作品、銀賞各2作品、銅賞各3作品、入選

組織賞:当映像祭に貢献度の高い教育機関への表彰

■ 実施体制

主催:株式会社鳴鳳堂、北京電影学院

制作:北京電影学院視听傳媒学院、鳴鳳堂国際青年映像祭実行委員会

後援:中華人民共和国駐福岡総領事館

運営(企画):株式会社ハイトップメディア、合同会社アースボイスプロジェクト、北京視開東方廣告有限公司

共催:株式会社 KISS 福岡、鳴鳳堂文化傳媒(上海)有限公司、MEIHODO LLC(USA)、KISS AMERICA

【お問い合わせ先】

鳴鳳堂国際青年映像祭実行委員会 [www.miuvef.com](http://www.miuvef.com)

担当者:狩生紗穂(かりゅう さほ) 080-9102-7103

曾秋龙(そう しゅうりゅう) 080-3520-1267

Tel:092-600-8588 Fax:092-843-0238

メール:[info@miuvef.com](mailto:info@miuvef.com)

(参考資料) 鳴鳳堂国際青年映像祭実行委員会

名誉委員長 (アメリカ) 靳羽西 Yue-Sai Kan

委員長 (中) 蘇慶 (株式会社鳴鳳堂 代表取締役)

(中) 侯光明 (北京電影学院理事会 理事長)

副委員長 (中) 宿志剛 (北京電影学院視听傳媒学院 院長)

(日) 榎田竜路 (特定非営利活動法人映像情報士協会 理事長)

(中) 劉斌 (株式会社中国電視 代表取締役)

特別顧問 (日) 滝田洋二郎 (映画監督)

(中) 孫立軍 (北京電影学院 副院長)

(中) 俞建紅 (北京電影学院 副院長 北京青年電影制作スタジオス タジオ長)

委員 (中) 程檣 (北京電影学院視听傳媒学院 副院長)

(日) 三浦茉莉子 (株式会社鳴鳳堂 執行役員)

(日) 田端俊久 (株式会社蘇生堂 代表取締役)

(日) 塙 幸成 (映画監督)

(中国香港) 賴水清 (映画監督)

(中) 高越 (株式会社 ハイトップメディア 代表取締役)

(中) 辺強 (鳴鳳堂文化傳媒(上海)有限公司 代表取締役)

(中) 高燕 (株式会社 鳴鳳堂 取締役)

(中) 高源伸 (漢和璞士国際文化交流(北京)有限公司 代表取締役)

(日) 牧山強 (株式会社 KISS 福岡 専務)

(アメリカ) James Zhang (鳴鳳堂 (USA) 執行役員)

(中国台湾) 曾莹玥 (鳴鳳堂文化傳媒(上海)有限公司 取締役)

(日) 榎田智子 (合同会社 アースボイスプロジェクト 統括本部長)

(日) 大野元毅 (映像音楽家)

特別ゲスト (オーストラリア)

顧浩 (International School of Management, RBAC 院長, オーストラリア)

事務局 (中) 李昂 (株式会社鳴鳳堂)

(中) 杜強 (北京視開東方広告有限公司)

(日) 田端隼人 (株式会社 鳴鳳堂)

(日) 濱崎幸輝 (株式会社 九州映画)

(中) 顔辰爻 (鳴鳳堂 (USA))

(中) 欧陽文意 (株式会社ハイトップメディア)

(日) 狩生紗穂 (株式会社 鳴鳳堂)

(中) 曾秋龙 (株式会社 鳴鳳堂)

(中) 刘立慧 (株式会社 KISS 福岡)

(中) 李晓 (株式会社 鳴鳳堂地所)

## 北京電影学院とは

1950 設立。中国のメディア教育の中心である名門教育機関。チャン・イーモウやチェン・カイコウなどの名だたる映画関係者はもとより、アジアを中心に世界中に多くの卒業生を有し、各国のメディア業界で活躍中です。

## 宿志剛 〈シュク シコウ〉

1961 年生まれ。中国を代表する写真家・メディア教育家。35 年間写真撮影の教育に従事し、これまで中国国内約 100 大学で講義を行ってきた。北京電影学院視聴メディア学部学部長、教授、博士指導教員  
元北京電影学院写真学部長、北京電影学院トレーニングセンター元理事、中国オーディオレコーディング協会オーディオビジュアルニューメディア委員会委員長、中国映画監督協会フィルムテレビ産業振興投資委員会副委員長  
中国高等教育協会写真委員会副委員長中国プレス写真家協会理事、中国芸術撮影協会副事務総長北京デジタル・メディア・ラボラトリーアカデミック・コミッティ会員、北京起業家写真協会副会長、ニューヨーク大学名誉教授  
ロサンゼルス国際写真家協会コンサルタント、韓国撮影史研究所客員研究員、大連医科大学客員教授、西安美術学院客員教授  
新疆芸術学院映画テレビ学部客員教授、大連理工学院客員教授、鄭州大学客員教授、青島工科大学客員教授  
成都工科大学ラジオテレビ学部客員教授

### <受賞歴>

第 5 回中国写真撮影教育「金像賞」受賞（中国文学芸術連盟）

第 8 回中国撮影理論「金像賞」受賞（中国文学芸術連盟）

中国写真家協会「徳育双馨」賞受賞

中国高等写真撮影教育賞基金 第 5 回「金燭賞」受賞（国家教育委員会）

中国高等写真撮影教育賞基金 第 6 回「中国高等写真撮影教育優れた貢献賞」受賞（国家教育委員会）

## 株式会社鳴鳳堂とは

株式会社鳴鳳堂は、映画ロケ地提供及び映画事業への投資、企画運営などの事業を行っております。株式会社鳴鳳堂の所有する熊本県阿蘇市鳴鳳堂は 56,000 平米もの土地に 28 棟の日本の伝統的建築法で作られた建築物と日本庭園からなり、武術、茶道、華道などの伝統芸能の研鑽の地として利用している他、この場所をアジア文化の新たな交流地と銘を打ち、日本文化体験、所蔵品鑑賞、講演会などのイベントを行っております。